

# 防災・減災の輪

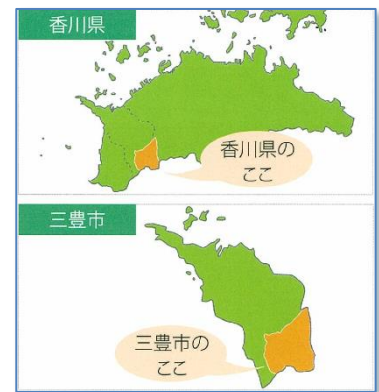
かがわ自主ぼう連絡協議会  
 会報 第174号(2021. 9. 1)  
 事務局 川西地区自主防災会

## 学校における防災教育の取組について 地域とともに安全を守る子どもの育成

三豊市立財田小学校  
 校長 丸岡 典子

### 1 財田町について (世帯数 1,424 世帯 人口 3,684 人 : 2021/4/2)

三豊市財田町は、東西約 7,5km 南北約 9,8km で総面積は約 47,16km<sup>2</sup> である。本町は財田川の源流域、阿讃山脈の北麓に位置しており、三豊市の南端にある。農業生産では、米作が盛んであるが、耕地が狭く、河岸段丘や山峡に散在を余儀なくされる。しかし、近年は高度な農業技術を導入して、多様な品種の作物・果樹・園芸植物などが栽培されている。校区には、大規模な公共施設はないが、香川用水東西分水工の施設があり、平成9年には、香川用水記念公園が完成した。「道の駅」「物産館」「環の湯」などの建設、「新猪ノ鼻トンネル」の開通により、県内外から訪れる人も多い。

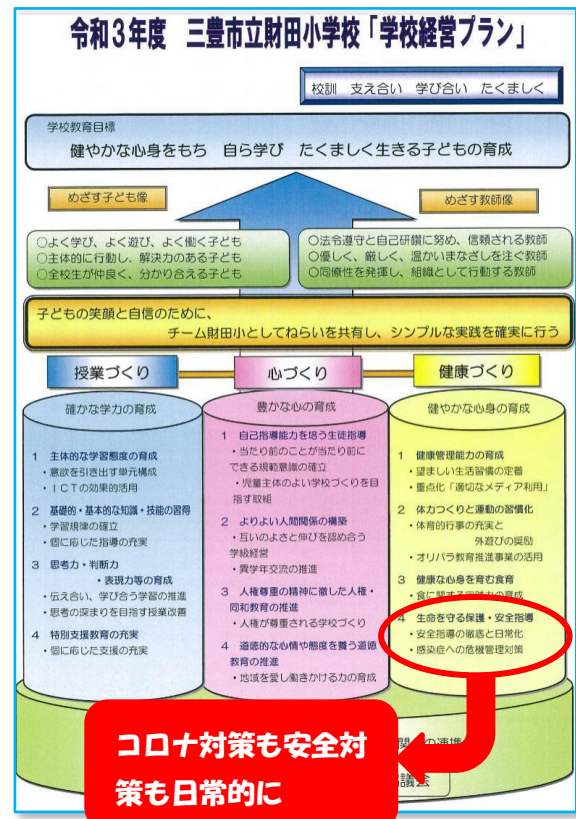


〈財田暮らしの便利帳〉

### 2 小学校について

本校は、平成28年に財田上・財田中小学校が統合されて発足し、今年度で6年目になる。地域の未来を考えた住民の英断の上に設立された学校であり、地域住民の学校教育に寄せる思いは熱い。本校は財田上地区と財田中地区の中心部に立地し、隣に財田町総合運動公園がある。小高い丘の上に建てられていること、運動公園の広いグラウンドに恵まれていることは、防災面から考えても好条件となっている。

校区にこども園、小学校、中学校と1校ずつしかない地区であるため、全校生が顔見知りであり安心して過ごすことができる反面、ややもすると人間関係が固定化しやすいという欠点がある。そこで私たちは、学校教育目標「健やかな心身を持ち 自ら学び たくましく生きる子



どもの育成」を掲げ、「子どもの笑顔と自信のために、チームとしてねらいを共有し、シンプルな実践を確実に行う」ことを共通認識し、実践を積み重ねている。

### 3 防災教育への取組

未曾有の被害をもたらした東日本大震災の復興が進められる中、熊本地震や北海道胆振東部地震等が起こり、甚大な被害が発生した。また、気候変動に伴う極端な大雨、台風の大型化等で日本全国どこで災害が起こっても不思議ではない状況である。こうした危機の対応には児童の危機回避能力を高めるための安全教育、教職員の危機管理意識や対応力を高めるための研修、実効性のある危機管理マニュアルの作成、保護者・行政・地域との連携が必要と考える。



そこで学校は次の5点を中心に防災教育に取り組んでいる。

- (1) 年度初めに、危機管理マニュアルの見直しをし、職員で情報共有し保護者にも周知する。
- (2) 毎月1回、全職員が校内設備の安全点検を行い、不備な点は教育委員会にも報告する。
- (3) 学期に1回、全校で避難訓練を行い、校長が講話をする。(地震、火災、不審者)
- (4) 毎年1回、外部機関からの指導(または協力)を得ながら、防災訓練を行う。
- (5) 週1回の集団下校時や学級活動で、安全に関する事案について児童に指導する。

### 4 防災訓練

- (1) ねらい
  - 20~30年後に、地域の中心的役割を担う児童の防災・減災に対する知識と防災意識を高める。
  - 学校等の公共施設が避難所の拠点となっていることを知り、身近な人と協力しようとする意識を育成する。
  - 訓練を通して、救助方法等について学び、実践力を身につけさせる。

## 11/16 (土) 「防災訓練」の概要

☆開始時刻を13:00に変更しています。 三豊市立財田小学校

13:00	<b>訓練メール配信</b>	1 児童は避難教室(自治会別教室)へ移動して待機する。 2 保護者は13:00までに来校し、校舎外で訓練メールを受信する。 3 保護者は13:00までに上着に履き替え、避難教室に向かう。
13:10	<b>引き渡し訓練・集合</b>	1 保護者は我が子の避難教室で、事前に配布した「引取カード」(時間の関係上、事前に記入して持参)を提示し、引き取る。 2 親子で集合場所の体育館へ、12:55までに移動し、自治会別に整列する。
13:15	<b>開会式</b>	○ 挨拶・防災訓練共催団体紹介・訓練説明等
13:30	<b>訓練</b>	○ 自治会別班(下表)を編成し、4種の訓練を体験する。 ○ 班毎のフラカードを目印に、4種の中の最初の訓練場所に移動する。 ○ 1訓練約18分間ずつ体験し、放送の合図により2分間で次の訓練の場所に移動する。 ○ 1つの活動班が4~50名前後の大勢であるため、指導者の指示に従う。(児童優先ですが、保護者の皆様も訓練してください!!)
14:50	<b>閉会式</b>	○ 講話・挨拶
15:30	<b>片付け・下校</b>	○ 児童は各学級に移動する。保護者は児童が体育館に戻り下校する。

### 訓練内容・場所 避難教室&自治会別班

避難教室	地区名	班番号
1年教室	川上	1
2年教室	長種	2
3年教室	大吉	3
オープンスペース ※3年教室隣	山分	4
4年教室	轟・北地上	5
5年1級教室	北地下・山王・山才	6
5年2級教室	石野・種子尾	7
6年教室	轟・久保の下・敦久	8



## (2) 取組の内容

### ① 全校生が保護者・地域と共に (平成30年度、令和元年度)

午前中、学習発表会を開催し、午後、保護者と共に自治会単位で各コーナーを回りながら、防災活動を体験した。川西地区自主防災会の方には講師をしていただき、公民館からは焼き芋づくりの協力を得た。



メール配信後、引き渡し訓練



土嚢づくり



バケツリレー

### 成果と課題

- 親子で取り組んだことにより、数々の訓練において、実践につながる見通しがもてた。
- △ 6年生に班長の役目を担わせることにより、災害時に貢献できるという自覚をもたせたい。

### ② 6年生を中心にコロナ禍での実施 (令和2年度)

コロナウイルス感染症への警戒心のため、密集、密接が起こる防災訓練は危険なのではないかという不安があった。しかし、いつ起こるか分からない災害に対して、子どもたちに安全や防災に関する必要な知識を身につけさせる必要があると考え、規模を縮小して行うことにした。実施計画作成については、川西地区自主防災会に支援していただいた。

防災訓練実施計画		教 頭
1 目的	災害等が発生した場合に、自分でできる避難行動や、周りの状況に応じて命を助けたり守ったりするための行動を学ぶことを通して、防災意識と実践力を高める。	
2 日時	令和2年11月14日(土 学習発表会) 12:50~13:35	
3 参加者	6年生 39名 ※新型コロナウイルス感染防止対策のため、本年度は6年生のみが体験し、5年生以下児童は短時間(10分程度)見学する。	
4 指導者	川西地区自主防災会の皆様20名程度 ※会長 岩崎正朔 様	
5 場 所	体育館	
6 内 容	体験の種類 (1) 避難所受付体験 (2) 避難所住居スペース作り体験 (3) AED操作体験 (4) 毛布担架・車椅子介助体験	
7 要 領	12:45 集合・整列完了(各組2グループ(男女混合 同人数 計4グループで)はじめの場所(1)A班 (2)B班 (3)C班 (4)D班 ※各グループに支援につく。(授業している人以外全員) 12:50 開会式は無して開始 各体験とも移動も含めて10分(実質9分程度)×4体験=40分	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">ステージ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;">(2) 避難所住居スペース作り体験</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;">(3) AED操作体験</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;">(1) 避難所受付体験</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 40%;">(4) 毛布担架・車椅子介助体験</div> </div> </div>		



車椅子介助体験



コロナ禍での避難所受付体験



毛布担架



5年生以下の児童は見学

## 成果と課題

- 6年生限定の訓練を時間短縮で行うことで、児童は集中力をもって取り組めた。
- △ コロナ禍でも、災害が起こる危険性があることを、誰もが意識して準備する必要がある。

## 5 社会科の授業実践「自然災害から身を守る」・・・4年生（令和3年度）

本単元の指導内容は、学習指導要領の「過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること」を受けている。

そこで、「地域の関係機関や人々が自然災害に対し様々な協力をして対処してきたこと」「今後想定される災害に対する備え」の2点に着目して調べていった。そして、児童が地域社会の一員としての自覚を高め、安全な生活を送るためにできることをまとめさせることで日常生活とつなげられるように指導した。

### 3 単元構成（全9時間 本時3/9）

#### <単元の目標>

- 【知】 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、資料で調べて必要な情報を集め、今後想定される災害に対しても様々な備えをしていることを理解する。
- 【思】 自然災害が発生した際の被害状況と人々を守る活動を関連付けて働きを捉え、自分たちにできることを考え、表現する。
- 【態】 地域で起こり得る災害を想定し、必要な備えをする等のできることを考え、行動しようとする。

#### <学習活動>

- ① 香川県で過去に発生した自然災害について知り、学習計画を立てる。
- ② 自然災害が私たちの暮らしに与える影響について資料を基に考える。
- ③（本時）自然災害に備えた家庭での取り組みについて調べて、話し合う。
- ④ 自然災害に備えた学校や通学路での取り組みについて調べて、話し合う。
- ⑤ 自然災害に備えた市や県の取り組みについて調べて、話し合う。
- ⑥ 市と住民の協力した対策について調べて、話し合う。
- ⑦ 住民同士の協力について調べて、話し合う。
- ⑧ 自然災害による被害を少なくするために自分たちができることについて考え、まとめる。
- ⑨ 避難所シミュレーションを行い、災害発生時に自分たちにできることを判断する。

持って行きたいものを全部入れると重くて避難できないな。



#### 単元の ゴール

「防災ハンドブックを作って、自分たちの命を守るコツを全校生に伝えよう。」  
(必要な情報を集めて読み取り、風水害から暮らしを守るためにできることを理解することができる。)

## 成果と課題

- 児童は自然災害を自分事として捉え、自治体や自分の備えについてまとめられた。

## 6 最後に

近い将来に起こるであろう南海トラフ地震発生時には自分の身を守るだけでなく、家族や地域の人とも助け合おうとする意識や実践力を児童に身につけさせたい。そのために社

会科や学級活動の時間等で計画的に指導をし、防災に対する基本的な知識を習得させたい。また年に1回は現実的な訓練を行うことで、学年に応じた実践力を育成することができる。さらには家庭や地域との連携が極めて重要である。今後も学校は、様々な安全教育・防災教育を通して保護者・地域に理解していただき、連携して防災教育に取り組んでいきたい。

## 編集後記

今月は三豊市財田小学校殿に原稿をお願いしました。4年前から防災研修を行なっています。今は新しい校舎となって小高い山の上に建設されています。学校関係者からお伺いした話ですが、校舎の裏山がこの一帯に住んでいる野ザルの住家となっていたため、夕方野ザルが帰ってくる途中に小学校の建物ができたため、野ザルの生態系に影響があつてか、授業中に数頭が教室の近かくまでやってくるそうです。この小学校を訪問して、周辺環境の素晴らしさに見とれたほどに校舎から南方に見える阿讃山脈の雄大さにワンドフルの連発です。私はいずれこの小学校から壮大な発想と重厚な取組みとそして何事にも優しい人々が誕生するものと期待しているしだいです。

(岩崎)



財田小学校校庭より望む阿讃山脈